

「みんなの未来区 BONJONO（ボン・ジョーノ）」 —シェアタウン プロジェクト—

■実施主体：一般社団法人城野ひとまちネット

■場所：福岡県北九州市

■背景・経過：

当地区は北九州市の JR 城野駅北側に位置する約 19ha のエリアであり、陸上自衛隊分屯地の移転と UR 団地の建て替えによる跡地の発生等を契機として、開発に向けた検討が始められた。その後、ゼロカーボンのまちづくりを目指すことについて関係者間で合意がなされ、財務省、UR、市の 3 者による基本協定の締結や協議会によるゼロ・カーボンまちづくりガイドラインの策定が行われた。これらに基づき、UR による土地区画整理事業、民間事業者による住宅供給（戸建住宅 350 戸、集合住宅 200 戸）が計画され、環境に配慮した住宅地として、2016 年にまちびらきが行われている。

また、地区内の管理組合等で構成されるタウンマネジメント組織「一般社団法人城野ひとまちネット」が 2015 年に設立され、まちの価値と魅力を維持していくため、エネルギーマネジメント、グリーンマネジメント、タウンセキュリティなどの活動を行っている。

■取組内容：

当地区は「城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業」として「環境未来都市北九州市」の主要プロジェクトに位置づけられており、街区全体で理論上 CO2 削減率 100%となることを目指している。このため、住宅単体では、市と各事業者で協定を締結し、長期優良住宅の認定や HEMS など創エネ・省エネ設備の設置等を義務付け、市がこれらの設置費用の一部を補助する等を行うとともに、地域内での CEMS 導入を推進するなど、エリア内の新設住宅全体でゼロ・カーボンの水準を達成することを目指している。

タウンマネジメント活動としては、各家庭や施設で使うエネルギー情報を収集し、ポータルサイトを通じて見える化をするなどの「エネルギーマネジメント」、まちなみのルールづくりや遊歩道・公園の維持管理などの「グリーンマネジメント」、防犯カメラの設置や見守りなどの「タウンセキュリティ」などを行っている。また、「共同編集型のまちづくり」や「シェアタウン」をキーワードに、共用空間や集会施設「くらしの製作所 TETTE」を活用して、イベントなど住民発意の様々な活動が行われている。



住宅に太陽光発電設備等を設置



CEMS により地区のエネルギーを管理



公園でのキャンプイベントの様子



環境学習のイベントの様子